

現代ファイナンス理論

10月20日

1 資産収益の直交分解と平均・分散フロンティア

1.1 収益率の直交分解と平均・分散フロンティアの導出: 不完備市場の場合

- 完備市場の場合 → 全ての状態において1のペイオフをもたらす資産1（安全資産）が必ず存在.
- **不完備市場の場合** → 安全資産1は、資産のペイオフ空間 H に属する場合とそうでない場合がある.

安全資産1が H に属さない場合の収益率の直交分解

ϕ : 確率的割引ファクター ξ をペイオフ空間の部分空間 H に射影したもの. つまり,

$$\phi \equiv \text{proj}(\xi|H).$$

部分空間 H に属する資産については, ϕ は正しい価格付けを行う.

$\forall v \in H$, ξ は確率的割引ファクターなので, v の資産価格 q_v は以下で表される.

$$q_v = \mathbb{E}[\xi v].$$

数学解説編 6.2 の示す事実を用いることで, $\forall v \in H$

$$q_v = \mathbb{E}[\xi v] = \mathbb{E}[\phi v].$$

が成り立つ. つまり, ϕ が $v \in H$ に対して正しい価格付けをすることになる.

前回の議論における ξ を ϕ に置き換えることで, 収益率の直交分解に関する議論がすべて成立する. 置き換えは, 以下の通り.

(1) ξ を ϕ に置き換える.

(2) $z_\xi^* \rightarrow z_\phi^*$
収益率のベクトル

$$z_\phi^* = \frac{\phi}{\mathbb{E}[\phi^2]}$$

は, ϕ と同方向の収益率を表す.

(3) $z_\xi^e \rightarrow z_\phi^e$
任意の収益率 z に対して,

$$z_\phi^e \equiv z - z_\phi^*$$

とすると, z_ϕ^* と z_ϕ^e は \mathbb{E} 内積で直交している.

(4) $R_\xi^e \rightarrow R_\phi^e$
 z_ϕ^e をペイオフとする資産の価格 q_ϕ^e はゼロ. このとき, ゼロ価格超平面^a R_ϕ^e は,

$$R_\phi^e \equiv \{z_\phi^e \in H \mid \mathbb{E}[\phi z_\phi^e] = 0\}.$$

(5) 安全資産 $\mathbf{1}$ を H へ射影する. (前回手順にはない.)

$$\mathbf{1}_\phi \equiv \text{proj}(\mathbf{1} | H).$$

(6) $\mathbf{f} \rightarrow \mathbf{f}_\phi$
 $\mathbf{1}_\phi$ をゼロ価格超平面へ射影したものを \mathbf{f}_ϕ とする.

$$\mathbf{f}_\phi \equiv \text{proj}(\mathbf{1}_\phi | R_\phi^e) = \mathbf{1}_\phi - \frac{\mathbb{E}[z_\phi^*]}{\mathbb{E}[(z_\phi^e)^2]} z_\phi^*.$$

(7) $z_\xi^e = \omega_\xi \mathbf{f} + \epsilon_\xi$ に関して, $\omega_\xi \rightarrow \omega_\phi$
 z_ϕ^e を直交分解したときの係数 ω_ϕ は,

$$\omega_\phi = \frac{\mathbb{E}[z_\phi^e]}{\mathbb{E}[\mathbf{f}_\phi]}.$$

^a確率的割引ファクター ϕ と直交しているベクトルの集合

このとき, (6.9) 式を除いた (6.2) 式から (6.14) 式までに対応する式がすべて成立する. $\forall \mathbf{v} \in H$,

$$\mathbb{E}[\mathbf{1}_\phi \mathbf{v}] = \sum_{i=1}^K \pi_i v_i = \mathbb{E}[\mathbf{v}].$$

また, $\forall \mathbf{v} \in R_\phi^e$,

$$\mathbb{E}[\mathbf{f}_\phi \mathbf{v}] = \mathbb{E}[\mathbf{v}] - \underbrace{\frac{\mathbb{E}[z_\phi^*]}{\mathbb{E}[(z_\phi^e)^2]} \mathbb{E}[z_\phi^* \mathbf{v}]}_{=0} = \mathbb{E}[\mathbf{v}].$$

が成り立ち, したがって,

$$\mathbb{E}[\mathbf{f}_\phi] = \mathbb{E}[\mathbf{f}_\phi^2].$$

以上より, $\forall \mathbf{z} \in H$,

$$\mathbf{z} = \mathbf{z}_\phi^* + \omega_\phi \mathbf{f}_\phi + \epsilon_\phi. \quad (6-14')$$

$$\mathbb{E}[z_\phi^* f_\phi] = 0, \mathbb{E}[z_\phi^* \epsilon_\phi] = 0, \mathbb{E}[f_\phi \epsilon_\phi] = 0.$$

安全資産 1 が H に属さない場合の平均・分散フロンティアの具体化

任意の収益率 $z \in H$ の直交分解

$$z = z_\phi^* + \omega_\phi f_\phi + \epsilon_\phi.$$

分散については,(6.15) 式をそれぞれの記号に置き換えた式

$$\text{var}(z) = \text{ver}(z_\phi^* + \omega_\phi f_\phi) + \text{var}(\epsilon_\phi) \quad (6-15')$$

分散を最小にする収益率は, $\epsilon_\phi = 0$ となる収益率, つまり

$$z_\phi^m = z_\phi^* + \omega_m f_\phi. \quad (6-16')$$

この集合が部分空間 H における, 平均・分散フロンティアとなる.

ここで,

$$\mathbb{E}[f_\phi] < 1 - \frac{(\mathbb{E}[z_\phi^*])^2}{\mathbb{E}[(z_\phi^*)^2]}$$

であるから, $A_\phi C_\phi - B_\phi^2 \neq 0$. したがって,(6-23)' 式に対応する σ の軌跡は**双曲線**となる.

1.2 確率的割引ファクターと平均・分散フロンティアの性質

以下の議論は, 完備市場・不完備市場によらず成り立つ. 収益率の z の分散は,

$$\text{ver}(z) \equiv \sigma^2 = \mathbb{E}[z^2] - \eta^2.$$

平均・分散フロンティアと共通点を持つ円の内, $\mathbb{E}[z]$ が最小になるのは, **フロンティアに接する円**.

2 次モメント最小点

2 次モメント最小点の求め方.

- 原点を中心とする円の方程式 $\eta^2 + \sigma^2 = c^2$ を全微分 $\rightarrow \frac{d\eta}{d\sigma} = -\frac{\eta}{\sigma}$.
- (6.23)' の全微分

$$\frac{d\eta}{d\sigma} = \frac{\sigma}{A_\phi \eta - B_\phi} \quad (6-28)$$

と比較して,2 次モメント最小の期待収益率 η^{ms} を得る.

$$\eta^{ms} = \frac{B_\phi}{A_\phi + 1} = \mathbb{E}[z_\phi^*]. \quad (6-29)$$

- 接線の傾き $\frac{\sigma^{ms}}{\eta^{ms}}$ を導出し, E 点を通る接線が y 軸と交わる点 D の縦座標を求める.

$$\mathbb{E}[z_\phi^*] + \frac{\mathbb{E}[(z_\phi^*)^2] - \mathbb{E}[(z_\phi^*)]^2}{\mathbb{E}[z_\phi^*]} = \frac{\mathbb{E}[(z_\phi^*)]^2}{\mathbb{E}[z_\phi^*]} \quad (6-30)$$

z_ϕ^* のゼロベータ収益率の表現

△ODE と △OEF の相似性より,

$$OD = \frac{(OE)^2}{OF} = \frac{\mathbb{E}[(z_\phi^*)^2]}{\mathbb{E}[z_\phi^*]} := \gamma$$

図 6-7 の点 D からの水平線と平均・分散フロンティアの交点を G とする.

G で表される収益率 $z_\phi^* \rightarrow$ 「 z_ϕ^* に対するゼロベータ収益率」

$$\gamma = \mathbb{E}[z^\gamma] = \frac{\mathbb{E}[z_\phi^* z^\gamma]}{\mathbb{E}[z_\phi^*]} = \frac{1}{\mathbb{E}[\phi]} \quad (\because \text{cov}(z_\phi^* z^\gamma) = 0) \quad (6-31)$$

↓

z^γ はリスク性資産だから, 収益率そのものが γ になるのではなく, 期待収益率が γ になる.
ゼロベータ収益率 z^γ を (6-14)' 式で書く.

$$z^\gamma = z_\phi^* + \omega^\gamma f_\phi$$

と書き, 両辺に期待値を取り, ω^γ について解くと,

$$\omega^\gamma = \frac{\mathbb{E}[(z_\phi^*)^2] - \mathbb{E}[z_\phi^*]^2}{\mathbb{E}[f_\phi]\mathbb{E}[z_\phi^*]} = \frac{\text{ver}(z_\phi^*)}{\mathbb{E}[f_\phi]\mathbb{E}[z_\phi^*]}$$

以上より, ゼロベータ収益率 z^γ を (6-14)' 式で書くと,

$$z^\gamma = z_\phi^* + \frac{\text{ver}(z_\phi^*)}{\mathbb{E}[f_\phi]\mathbb{E}[z_\phi^*]} f_\phi \quad (6-32)$$

最小分散収益率の表現

平均・分散フロンティア上の収益率: $z^m = z_\phi^* + \omega_m f_\phi$

分散を計算すると,

$$\text{ver}(z^m) = \mathbb{E}[(z_\phi^*)^2] + \omega_m^2 \mathbb{E}[f_\phi^2] - \mathbb{E}[z_\phi^*]^2 - 2\omega_m \mathbb{E}[z_\phi^*]\mathbb{E}[f_\phi] - \omega_m^2 \mathbb{E}[f_\phi]^2 \quad (6-33)$$

ここで, $z \in R_\phi^e$ として, (6-33) 式を ω_m について微分して, ゼロとおくと

$$\omega_m = \frac{\mathbb{E}[z_\phi^*]}{1 - \mathbb{E}[f_\phi]}$$

これが最小分散を与える. 最小分散収益率 z^{mv} を (6-14)' 式の形で書くと

$$z^{mv} = z_\phi^* + \frac{\mathbb{E}[z_\phi^*]}{1 - \mathbb{E}[f_\phi]} f_\phi. \quad (6-34)$$

6-34 式の期待値をとると,

$$\mathbb{E}[z^{mv}] = \mathbb{E}[z_\phi^*] + \frac{\mathbb{E}[z_\phi^*]}{1 - \mathbb{E}[f_\phi]} \mathbb{E}[f_\phi] = \omega_m \quad (6-35)$$

安全資産の収益率の表現

r_f : 安全資産が存在する場合の収益率.

r_f を (6-14)' 式の形で書くと,

$$r_f = z_\phi^* + \omega^f f_\phi. \quad (\because \epsilon \text{成分は存在しない.})$$

先ほど同様に, ω^f の値を求める. 数学解説編の射影定理を用いれば,

$$\text{proj}(r_f | f_\phi) = \frac{\mathbb{E}[r_f f_\phi]}{\mathbb{E}[f_\phi^2]} f_\phi = R_f f_\phi \quad (\because \mathbb{E}[f_\phi] = \mathbb{E}[f_\phi^2])$$

したがって,

$$r_f = z_\phi^* + R_f f_\phi \quad (6-36)$$

まとめ

(1) ゼロベータ収益率 z^γ :

$$z^\gamma = z_\phi^* + \frac{\text{ver}(z_\phi^*)}{\mathbb{E}[f_\phi]\mathbb{E}[z_\phi^*]} f_\phi \quad (6-37)$$

(2) 最小分散収益率 z^{mv} :

$$z^{mv} = z_\phi^* + \frac{\mathbb{E}[z_\phi^*]}{1 - \mathbb{E}[f_\phi]} f_\phi. \quad (6-38)$$

(3) 安全資産収益率 r_f :

$$r_f = z_\phi^* + R_f f_\phi \quad (6-39)$$

安全資産が存在する場合は、これらがすべて等しくなる。これは、次のように証明できる。(6-39) 式の期待値をとると,

$$\mathbb{E}[r_f] = R_f = \mathbb{E}[z_\phi^*] + R_f \mathbb{E}[f_\phi] \quad (6-40)$$

これを R_f について解くことで (6-38) と (6-39) が同じことが分かる。

安全資産が存在する場合には、その収益率は γ に等しいので、(6-31) 式の γ の定義より,

$$\gamma = \frac{\mathbb{E}[(z_\phi^*)^2]}{\mathbb{E}[z_\phi^*]}.$$

これを、(6-39) に代入し、 R_f について解くと,

$$R_f = \frac{\mathbb{E}[(z_\phi^*)^2] - \mathbb{E}[z_\phi^*]^2}{\mathbb{E}[f_\phi]\mathbb{E}[z_\phi^*]} = \frac{\text{ver}(z_\phi^*)}{\mathbb{E}[f_\phi]\mathbb{E}[z_\phi^*]}$$

となるので、(6-37) 式と (6-39) が等しいことが分かる。

確率的割引ファクターに関する制約

$\mathbf{V}:(S \times K)$ のペイオフ行列

$\mathbf{V} - \mathbb{E}[\mathbf{V}]: v_k - \mathbb{E}[v_k]$ を第 k 列とする $(S \times K)$ の行列。

$\hat{\phi}: H$ におけるペイオフを正しく価格付けるベクトル。すなわち、価格ベクトルを \mathbf{q} とすると,

$$\mathbf{q} = \mathbb{E}[\hat{\phi}\mathbf{V}] = \mathbb{E}[(\mathbf{V} - \mathbb{E}[\mathbf{V}])'(\hat{\phi} - \mathbb{E}[\hat{\phi}])] + \mathbb{E}[\hat{\phi}]\mathbb{E}[\mathbf{V}] \quad (6-41)$$

ここで、 $\hat{\phi}$ を次の形に書く。

$$\hat{\phi} = (\mathbf{V} - \mathbb{E}[\mathbf{V}])\boldsymbol{\beta} + \mathbb{E}[\hat{\phi}] + \boldsymbol{\epsilon}. \quad (6-42)$$

(6-42) 式を (6-41) 式に代入して、 $\boldsymbol{\beta}$ について解くと,

$$\boldsymbol{\beta} = \boldsymbol{\Sigma}^{-1}[\mathbf{q} - \mathbb{E}[\hat{\phi}]\mathbb{E}[\mathbf{V}]] \quad (6-43)$$

ただし,

$$\boldsymbol{\Sigma} \equiv \mathbb{E}[(\mathbf{V} - \mathbb{E}[\mathbf{V}])'(\mathbf{V} - \mathbb{E}[\mathbf{V}])].$$

これは、ペイオフ \mathbf{V} の分散共分散行列である。(6-43) 式を (6-42) 式に代入すると,

$$\hat{\phi} = (\mathbf{V} - \mathbb{E}[\mathbf{V}])\boldsymbol{\Sigma}^{-1}[\mathbf{q} - \mathbb{E}[\hat{\phi}]\mathbb{E}[\mathbf{V}]] + \mathbb{E}[\hat{\phi}] + \boldsymbol{\epsilon}$$

これを用いて、 $\hat{\phi}$ の分散を求めると、

$$\begin{aligned}
\sigma^2(\hat{\phi}) &= \mathbb{E}[(\hat{\phi} - \mathbb{E}[\hat{\phi}])^2] \\
&= \mathbb{E}[(\mathbf{V} - \mathbb{E}[\mathbf{V}])\Sigma^{-1}(\mathbf{q} - \mathbb{E}[\hat{\phi}]\mathbb{E}[\mathbf{V}]) + \epsilon)^2] \\
&\geq \mathbb{E}[(\mathbf{q} - \mathbb{E}[\hat{\phi}]\mathbb{E}[\mathbf{V}])'\Sigma^{-1}\underbrace{(\mathbf{V} - \mathbb{E}[\mathbf{V}])'(\mathbf{V} - \mathbb{E}[\mathbf{V}])}_{=\Sigma}\Sigma^{-1}(\mathbf{q} - \mathbb{E}[\hat{\phi}]\mathbb{E}[\mathbf{V}])] \\
&= (\mathbf{q} - \mathbb{E}[\hat{\phi}]\mathbb{E}[\mathbf{V}])'\Sigma^{-1}(\mathbf{q} - \mathbb{E}[\hat{\phi}]\mathbb{E}[\mathbf{V}])
\end{aligned} \tag{6-44}$$

となる．(6-44) 式で表される条件は、Hansen-Jagannathan bound と呼ばれる．

1.3 収益率の直行分解に関する数値例

確率的割引ファクターを用いた分解

初めに完備市場を想定して計算．また、データは 5.4 で使用したものを利用する．完備市場において、任意の収益率 $\forall z_k \in \mathbb{R}^s$ を E 内積を用いて直行分解すると、以下となった．

$$z_k = z_{\xi}^* + \epsilon_k \mathbf{f} + \epsilon_k.$$

今までの導出式を利用することで、資産 2 の収益率は以下で分解される．

$$\begin{pmatrix} 4.731 \\ 1.182 \\ 0.473 \\ 0.473 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0.325 \\ 0.433 \\ 0.661 \\ 0.808 \\ 2.814 \end{pmatrix} + 2.431 \times \begin{pmatrix} 0.696 \\ 0.595 \\ 0.382 \\ 0.245 \\ -1.629 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 2.714 \\ -0.697 \\ -1.117 \\ -0.931 \\ 1.146 \end{pmatrix}$$

計算結果の確認はエクセルに記載の通り．

不完備市場を考える．資産 2 に加えて資産 1 と資産 3 が取引されていると仮定．この時、確率的割引ファクター ξ の部分空間 H へ射影した ϕ は、

$$\phi = \begin{pmatrix} 0.484 \\ 0.705 \\ 0.705 \\ 1.283 \\ 0 \end{pmatrix}$$

となる．実際、資産のペイオフ行列 V を

$$V = \begin{pmatrix} 20 & 10 & 0 \\ 5 & 7 & 1 \\ 2 & 4 & 5 \\ 2 & 1 & 20 \\ 0 & 0 & 0 \end{pmatrix}$$

とし、P216 の (A-12) 式

$$\phi = V[\mathbb{E}(V'V)]^{-1}\mathbb{E}(V'\xi) \tag{A-12}$$

を利用すると結果が得られる．

ϕ は、ベクトルの第 5 成分が 0 である資産に対しては正しい価格付けを行う．また、資産 2 に対して ϕ

は正しい価格付けを行い，収益率 z_ϕ は，以下で分解される．

$$\begin{pmatrix} 4.731 \\ 1.182 \\ 0.473 \\ 0.473 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0.818 \\ 1.190 \\ 1.191 \\ 2.167 \\ 0 \end{pmatrix} + 5.076 \times \begin{pmatrix} 0.408 \\ 0.176 \\ -0.031 \\ -0.517 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1.838 \\ -0.903 \\ -0.562 \\ 0.933 \\ 0 \end{pmatrix}$$

Appendix

(6.9) 式が成り立たない理由について

f_ϕ の両辺に期待値をとると,

$$\begin{aligned}\mathbb{E}[f_\phi] &= \mathbb{E}\left[\mathbf{1}_\phi - \frac{\mathbb{E}[z_\phi^*]}{\mathbb{E}[(z_\phi^*)^2]} z_\phi^*\right] = \mathbb{E}[\mathbf{1}_\phi] - \frac{\mathbb{E}[z_\phi^*]^2}{\mathbb{E}[(z_\phi^*)^2]} \\ &< 1 - \frac{\mathbb{E}[z_\phi^*]^2}{\mathbb{E}[(z_\phi^*)^2]}\end{aligned}$$

これより,(6.9) 式が成り立たないことが分かる.